

Perfect Listening

[Revised Edition]

Takanori Hayasaka
Hidechika Matsui

Asahi Press

はしがき

読む、書く、聞く、話す、のいわゆる4技能を平行して身につけるのが語学の勉強の本筋でしょうが、読み書きの基本はかなりできているのに、聞く話すがなかなか身につかないという声が英語学習者の間でしばしば聞かれます。聞き話すといういわゆる口頭によるコミュニケーションがますます重要になっていくとき、何とかこの問題を解決していく道はないのでしょうか。口頭によるコミュニケーションが成り立つためには、まず相手の言っていることが理解できなければなりません。かりに、こちらの発音が良くて立派な文が即座に言えても相手の返事が聞き取れなければ困ります。また、相手がこちらにたずねている内容がわからなければ返事のしようもありません。

本書は、とくにこの聞き取り（リスニング）の問題を取り上げ、なぜ英語の音声聞き取れないのか、そのいくつかの原因を科学的に分析し、これらをひとつひとつ解決していくことによって、リスニングの力をつけていくことができるように編集されています。

英語の音声についての基本的なことから、それもリスニングに直接役立つことがらをわかりやすく解説し、その後に適切な練習問題を配してあります。これらには生粋のネイティブスピーカーの録音によるCDが付属しています。さらに、最終章は現行のTOEIC®テストに準拠した「総合練習問題」となっています。本書による学習成果を確認するためにもTOEIC®テストの受験はお勧めです。

本書は付属のCDとともに、リスニングの独習用としてのほか、大学等の一般的な英語の授業、または英語音声学やLL等の授業の教材・補助教材として利用できるでしょう。

最後に、本書の企画から、編集・出版、さらには今回の改訂版出版に至るまで多大なご尽力をいただいた朝日出版社の佐藤治彦氏、ならびにネイティブスピーカーの立場で本書の英文を詳細にチェックして下さったメアリー田所氏、さらにCD作成にあたり録音を担当して下さった Anita Sugunan 氏、Chris Koprowski 氏、Josh Keller 氏、Emma Howard 氏に心から御礼申し上げます。

2012年5月
著者

目次

はじめに

- 1. なぜ英語が聞き取れないか 1
- 2. リスニング上達のコツと本書の特徴 2
- 3. 本書で使用する音声記号の一覧 3

第 I 章 英語のリズムに乗る

- 1. ことばのリズムとは 5
- 2. 英語のアクセントの特徴 9
 - EXERCISE 1 10
 - EXERCISE 2 11
- 3. 語アクセントと文アクセント 12
 - EXERCISE 3 13
- 4. 内容語と機能語 13
- 5. 機能語の弱化 14
 - 5. 1. 人称代名詞の弱化 15
 - a. - he, his, him, her, them の場合 15
 - EXERCISE 4 15
 - EXERCISE 5 16
 - b. - you の場合 16
 - EXERCISE 6 17
 - EXERCISE 7 17
 - EXERCISE 8 18
 - 5. 2. 接続詞 and / or の弱化 19
 - EXERCISE 9 19
 - EXERCISE 10 19
 - 5. 3. 前置詞 of / for の弱化 20
 - EXERCISE 11 20
 - 5. 4. 助動詞の弱化 21
 - a. could / should / would / etc. + have + 過去分詞 21
 - EXERCISE 12 22

| | |
|---|----|
| b. can と can't | 23 |
| EXERCISE 13 | 23 |
| EXERCISE 14 | 24 |
| c. Have I ... ? Have you ... ? | 24 |
| EXERCISE 15 | 25 |
| 5. 5. be 動詞の弱化 | 26 |
| a. We are ... , You are ... , They are ... | 26 |
| EXERCISE 16 | 26 |
| EXERCISE 17 | 26 |
| b. Is he ... ? , Does he ... ? , Has he ... ? | 27 |
| EXERCISE 18 | 27 |
| EXERCISE 19 | 27 |

第Ⅱ章 聞こえなくなる音

| | |
|--|----|
| 1. 聞こえなくなる音 | 29 |
| 1. 1. 同じ音が続いたとき | 29 |
| EXERCISE 1 | 31 |
| 1. 2. 似たような音が続いたとき (その1) | 32 |
| EXERCISE 2 | 33 |
| 1. 3. 似たような音が続いたとき (その2) | 34 |
| EXERCISE 3 | 36 |
| 1. 4. [t] または [d] の次に [θ] または [ð] が来るとき | 37 |
| EXERCISE 4 | 39 |
| 2. 聞こえにくくなる音 | 39 |
| 2. 1. 発話末尾の [t], [d], [p], [b], [k], [g] | 39 |
| EXERCISE 5 | 40 |
| 2. 2. アクセントのない音節の母音が消えることがある | 41 |
| EXERCISE 6 | 42 |
| EXERCISE 7 | 42 |
| 2. 3. [-nt-] の [t] が聞こえなくなることがある | 43 |
| EXERCISE 8 | 43 |
| EXERCISE 9 | 44 |
| 2. 4. 動詞の現在形と過去形の発音が区別しにくいことがある | 44 |
| EXERCISE 10 | 45 |

第Ⅲ章 つながる音

| | |
|--|----|
| 1. 語と語の間で同じ音が連続する | 47 |
| 1. 1. [f] + [f], [θ] + [θ], [s] + [s] など | 47 |
| EXERCISE 1 | 47 |
| EXERCISE 2 | 48 |
| 1. 2. [m] + [m], [n] + [n] | 49 |
| EXERCISE 3 | 49 |
| 1. 3. [l] + [l], [r] + [r] | 49 |
| EXERCISE 4 | 50 |
| EXERCISE 5 | 51 |
| 2. 語尾の子音と次の語の先頭の母音 | 52 |
| EXERCISE 6 | 52 |
| EXERCISE 7 | 53 |

第Ⅳ章 変身する音

| | |
|--|----|
| 1. [t] + [j] → [tʃ], [d] + [j] → [dʒ] | 55 |
| EXERCISE 1 | 55 |
| EXERCISE 2 | 56 |
| 2. [t] + [s] → [tʃs] | 56 |
| EXERCISE 3 | 57 |
| EXERCISE 4 | 57 |
| 3. “明るいL”と“暗いL” | 58 |
| EXERCISE 5 | 59 |
| EXERCISE 6 | 60 |
| 4. 「側面開放」の [t], [d] ([t] + [l] → [tʰ], [d] + [l] → [dʰ]) | 60 |
| EXERCISE 7 | 61 |
| 5. 「たたき音」化した [t], [d] | 62 |
| EXERCISE 8 | 63 |
| EXERCISE 9 | 64 |
| EXERCISE 10 | 64 |
| EXERCISE 11 | 65 |
| 6. 添加音 [t] ([ns] → [nts], [nθ] → [ntθ], [nf] → [ntʃ]) | 66 |
| EXERCISE 12 | 67 |

| | |
|--|----|
| 7. 「鼻腔開放」の [t], [d] ([t] + [n] → [t ⁿ], [d] + [n] → [d ⁿ]) | 67 |
| EXERCISE 13 | 68 |
| 8. 有声子音の無声化 | 68 |
| EXERCISE 14 | 69 |
| 9. その他の慣用的な音変化 | 70 |
| EXERCISE 15 | 71 |
| EXERCISE 16 | 71 |

第V章 総合練習問題

| | |
|--------------|----|
| Part 1 | 73 |
| Part 2 | 77 |
| Part 3 | 80 |
| Part 4 | 85 |

はじめに

1. なぜ英語が聞き取れないか

英語についてはすでに基本的な知識があり、ひとつひとつの音や単語については発音も聞き取りもある程度できるのに、発話全体が聞き取れない、ということがある。この原因として考えられるのはほぼ次のようなことであろう。

1. それぞれの音、音節が生起する時間的パターン（英語のリズムパターン）についていけない。「どこが切れ目かわからず、すごく早口に感じられる」とよく言われるが、われわれに無意識のうちにしみついている日本語のリズム感覚で英語を聞こうとしている。**英語のリズム**を身につけることが必要である。
2. それぞれの音は、語中では**どういう音と隣り合うか**によって発音（すなわち、聞こえかた）が大きく変わる。単独の音のみの学習や練習では不十分である。綴り字や音声記号（発音記号）だけから予測していると、現実の聞こえかたが大きく違うことがあるので聞き取れないことになる。単語としての実際の聞こえかたを耳で覚えることが必要である。
3. 単語も単独で聞いたときと、文中に出てきたときでは聞こえかたが大きく違うことがある。文中では**前後の単語と融合**して発音そのものがかなり変わるからである。単独の単語のイメージを予期していると、聞き取れないことになる。音はどのような場合にどう変わるか、を学び、それに沿った練習をすることが必要である。
4. 同じ単語でも、文アクセントがかかる場合とかからない場合とでは聞こえかたが大きく異なる。これは1.のリズムとも関係するが、**文アクセント**の生じかたについても学習と練習が必要である。
5. 話は耳に聞こえる音声だけで通じるわけではない^{注)}。かりに音声すべて聞き取れても、それが相手の話全体の理解につながるとはかぎらない。英語のネイティブスピーカーは英語のリスニングテストで常に満点を取れるか、というと彼らでさえ英語の音声だけを聴取させるテストではほぼ95%～98%程度の正答率しかでない。発話全体を理解するために音声の聞き取り以外に必要なことは、語彙力や文法力（文の構造理解）はもちろん、文脈（話の前後関係）を把握し、それによって**話の先々を予測する力**、話の内容に関する予備知識、さらには幅広い一般常識が必要となる。このような受け皿が用意されてこそ、音声はよどみなく耳に入ってくるのである。

〔注〕

複数の英語のネイティブスピーカーに *There were many tigers and liars.* という文を文脈なしに聴かせて書き取らせるテストをしたところ、大半は *There were many tigers and lions.* と解答したという。ネイティブだから *liars* (「うそつき」) という音声聞き取れないはずはない。ここで彼らの音声以外の知識が優先したのである。すなわち *tigers* (「虎」) とペアになるにふさわしいもので [lár-] で始まる語といえば *lions* (「ライオン」) しかないという予測が、耳から入った [láɪəz] という音声情報にうち勝ってしまったのである。これは、次に聞こえてくる内容に対する予測がいかに強力であるかを示すために、不自然な文を意図的に用いた実験であった。現実の場面でこのような不自然な内容の文が出現することはまずないと考えていいだろう。したがって、このような、話の先々を予測していくような方法を取れば、音声それ自体の聞き取りに多少の問題があっても、発話全体の理解が可能になるのである。たとえば、*There were many tigers and lions.* という文の *lions* の部分の話者の発音がまずかったり、雑音などでうち消されたり、また聞き手のこの単語の音声に対する習熟度が不十分だったとしても、この文は聞き手側で完全に再現できるだろうということである。

2. リスニング上達のコツと本書の特徴

万事「慣れる」ことが重要ではあるが、合理的な練習方法をとらないと、たいへん非能率的な学習になってしまう。限られた時間内で、一定の効果を上げるためには、できるだけ科学的に分析された合理的な練習方法をとることが重要である。本書は、上記1.～4.の聞き取りのボトルネックになっているポイントを的確に分析し、そこを乗り越えるための適切な方法を指摘し、それに沿った豊富な練習問題を提供している。

なお上記5.については本書の範囲外になるので、学習者諸氏は他の書物や学校の授業などで十分に力をつけるよう努力していただきたい。

※ 本書中でCDに録音されている部分は、CDマークを付した囲みになっている。

3. 本書で使用する音声記号の一覧

母音

| 音声記号 | 単語例 | 音声表記 | 単語例 | 音声表記 |
|------|---------|----------|---------|----------|
| [i] | peak | [pi:k] | feel | [fi:l] |
| | lucky | [lʌki] | Mary | [méri] |
| [ɪ] | pick | [pɪk] | fill | [fɪl] |
| [e] | get | [get] | test | [test] |
| [æ] | hat | [hæt] | man | [mæn] |
| [ɑ] | father | [fá:ðə] | stop | [stap] |
| [ɔ] | thought | [θɔ:t] | port | [pɔ:rt] |
| [ʊ] | foot | [fʊt] | pull | [pʊl] |
| [u] | food | [fu:d] | pool | [pu:l] |
| [ʌ] | come | [kʌm] | done | [dʌn] |
| [ə] | banana | [bənæné] | about | [əbáut] |
| [ə] | bird | [bɜ:d] | teacher | [tí:tʃə] |

二重母音

| 音声記号 | 単語例 | 音声表記 | 単語例 | 音声表記 |
|------|------|--------|-------|---------|
| [ei] | date | [deit] | make | [meik] |
| [ai] | file | [faɪl] | light | [laɪt] |
| [aʊ] | out | [aʊt] | house | [haus] |
| [ɔɪ] | boy | [bɔɪ] | moist | [mɔɪst] |
| [ou] | boat | [bɔt] | home | [hɔum] |

子音

| 音声記号 | 単語例 | 音声表記 | 単語例 | 音声表記 |
|------|---------|----------|--------|-----------|
| [p] | picture | [píktʃə] | report | [rɪpɔ:rt] |
| [b] | belt | [belt] | able | [éibɫ] |
| [t] | tax | [tæks] | hot | [hat] |
| [d] | deep | [di:p] | should | [ʃʊd] |
| [k] | key | [ki:] | park | [pɑ:k] |
| [g] | game | [geɪm] | egg | [eg] |

| | | | | |
|------|------------|-------------|---------|-----------|
| [f] | feel | [fi:l] | safe | [seɪf] |
| [v] | voice | [vɔɪs] | love | [lʌv] |
| [θ] | think | [θɪŋk] | earth | [əθ] |
| [ð] | that | [ðæt] | other | [ʌðə] |
| [s] | see | [si:] | peace | [pi:s] |
| [z] | zoo | [zu:] | choose | [tʃu:z] |
| [ʃ] | sheep | [ʃi:p] | fish | [fɪʃ] |
| [ʒ] | television | [téləvɪʒən] | | |
| [h] | help | [help] | ahead | [əhéð] |
| [tʃ] | cheese | [tʃi:z] | catch | [kæʃ] |
| [dʒ] | jazz | [dʒæz] | age | [eɪdʒ] |
| [m] | move | [mu:v] | seem | [si:m] |
| [n] | name | [neɪm] | coin | [kɔɪn] |
| [ŋ] | sing | [sɪŋ] | English | [ɪŋɡlɪʃ] |
| [l] | live | [lɪv] | tell | [tel] |
| [r] | rich | [rɪtʃ] | car | [kɑr] |
| [w] | walk | [wɔ:k] | switch | [swɪtʃ] |
| [j] | you | [ju:] | music | [mjú:zɪk] |

補助記号

| | | | |
|------|----------------------------|------------------|------------------|
| [ˈ] | 第1 アクセント | communication | [kəmju:nɪkේɪʃən] |
| [ˌ] | 第2 アクセント | communication | [kəmju:nɪkේɪʃən] |
| [:] | 長音記号 | feel | [fi:l] |
| [.] | 音節子音 (母音の代わりとなって音節を形成する子音) | sudden [sʌd̩n], | able [éɪb̩l] |
| [.ə] | 無声化 (有声音が声帯振動を伴わずに発音されるもの) | have to [hæv̩tə] | |

本書の音声表記およびCDに録音されている英語の音声は、いわゆる「一般米語 (General American)」を基本とする。これはアメリカ合衆国の中でも広い地域にわたり、人口でも過半数を占める人々によって話されている英語で、全国的、さらには国際的な放送でも多く用いられているいわば標準的と言っていい米語である。使用記号はIPA (国際音声字母) 1993に準拠、英語の表記法はD.Jones, *English Pronouncing Dictionary* 第15版 (1997) に補助記号の一部を除いて準拠している。

英語のリズムに乗る

1. ことばのリズムとは

「リズム」という語を日本語の辞書（広辞苑）で引いてみると、「律動。調子。詩の韻律。音楽で、音の強弱が周期的に繰り返される構造。節奏。拍子」とあって、用例として、「リズムに乗る」「生活のリズムが狂う」とある。

音楽でリズムといえばだれでもわかると思うが、ことばにもリズムがあるということを実感したことがあるだろうか？ 日常的にはあまりピンとこないという人も多いかもしれないが、日本古来の詩形である短歌・俳句に接して、あの七五調の快い律動を感じたことを思い出す人もいるだろう。

このリズムは日常生活でも標語やコマーシャルなどでしばしば生かされている。通常日本語によるコミュニケーションではとくに7とか5の拍数にこだわることはないと思うが、しかし何気なく使っている日本語にもそれなりのリズムがある。われわれはこの日本語のリズムに空気のように慣れきっているので、英語を使うときもついこのリズムパターンから抜けきれずに、うまくコミュニケーションができないということがある。

基本的な英語力はかなりあるのに、リスニングだけはいまいち自信がもてない、という人は、もしかすると、この日本語のリズム感から英語特有のリズムに自分自身を切り替えられない、ということが主な原因かもしれない。そこで、次に日本語と英語のリズムがどのように違うかを考えながら、英語のリズム感を身につけるための練習をする。

【参考】

“rhythm”を英英辞典（*Random House*）で引いてみると、いろいろな意味の項目があって、その一部に、ことばのリズムについて次のような解説があった。

The pattern of recurrent strong and weak accents, vocalization and silence, and the distribution and combination of these elements in speech.

（ことばにおいて、繰り返し起こる強弱のアクセントや、発声と沈黙のパターン、およびそれらの要素の分布や組み合わせ）

リズム単位——日本語は「拍」基準，英語はアクセント基準

「リズム」とは、簡単にいえば「音の強弱などの単位が周期的に繰り返される構造」のことである。「周期的に」は「(ほぼ)一定時間ごとに」といいかえてもいいだろう。音声にも言語によって特有のリズム構造がある。日本語（共通語）のリズムは「拍基準型 (mora-based)」といわれる。「拍」とは簡単にいえば通常カナ文字1文字分で表される音声単位である（「古都」は2拍、「コート」は3拍、「来て」は2拍、「切手」は3拍）。前述の俳句などの5-7-5はいずれも拍の数で、拍がリズム単位になっていることが実感できる。つまり、1拍ずつが

〔注〕

CDのこの部分は、左のスピーカーからは文が、右のスピーカーからは文アクセントの位置に合わせてピッ ... ピッ ... という音が聞こえるようにステレオで録音されている。ステレオプレーヤーで聞いている人は左右の音量のバランスを変えることで、両方が適度に聞こえるように調節するとよい。

リズムになれたら右スピーカーの音を絞って、文だけを聞くようにする。ピッ ... ピッ ... が耳に聞こえなくてもそのリズム感覚が耳の奥に残っているようであれば英語のリズムが身に付き始めたと言っていいだろう。

Track
1

1. Doctor Higgins reported his discovery at a news conference yesterday.



2. Spaceships do not have room to carry enough food for long trips.



3. Eddie had a feeling that he might be in love with Maggie.



4. We used to enjoy chitchatting at a comfortable snack bar.



5. I wonder what he's doing these days.



6. His name is Edward, but we call him Eddie.



7. You could refuse to work overtime, but it would go against your promotion.

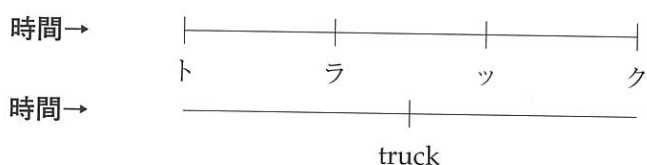


8. Richard speaks Japanese better than I do.



また、リズムに関係することのひとつに、日本語と英語の音節構造の違いがある。これは英語からの外来語として日本語化している単語（いわゆるカタカナ語）と本来の英語の単語を音声的に比較してみるとよくわかる。たとえば、カナ文字4文字の「トラック」は音声的に4拍なのに、英語の“truck”は1音節にすぎず、いわば1拍である。耳の方が4拍を预期しているような状態で、全体が1拍として入ってくれば、うまく聞き取れないのはむしろ当然である。

日本語の音節構造として、子音の次にまた子音がくる、とか、子音で終わる、ということではなく（わずかの例外をのぞく）、子音がくれば次は母音ということになる。“truck”は英語の音声としては [trʌk] であるが、「トラック」は [torakku] となり（厳密には [ɾ] などが英語と違うが）[t] と [k] の後ろに母音が挿入される。



このように日本語と違う英語の音節構造に習熟するということも、英語のリズムを身につける上で最も基本的なことといえる。そして何とかしてこの英語のリズムパターンを身につけることができれば、リスニング能力を大きく高めることができるであろう。

次は英語からの外来語として定着したカタカナ語と、その元になった英語の単語のペアである。両方を聞き比べて、英語と日本語の音節構造の違いを理解しなさい。

なお、英語のアクセントの位置に合わせて、ピツという音が重ねて録音してある。

Track
2

- | | | | |
|----------------------|------------------------|-----------------------|--------------------------------|
| 1. キーボード keyboard | 2. ドライヤー dryer | 3. カッター cutter | 4. マネージャー manager |
| ◆ | ◆ | ◆ | ◆ |
| 5. アルバム album | 6. マンネリズム mannerism | 7. コンクリート concrete | 8. リハビリテーション rehabilitation |
| ◆ | ◆ | ◆ | ◆ |
| 9. パイロット pilot | 10. ローカル local | | |
| ◆ | ◆ | | |